

「投獄の苦しみ」を再定義する： フィリピンにおける連帯、正義、そして収監中の女性たち

Reframing the 'Pains of Imprisonment': Solidarity, Justice, and Incarcerated Women in the Philippines

講師：イメルダ・デインラ氏

ニューイングランド大学(オーストラリア) 准教授
神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部 客員研究員

本講演では、フィリピンの刑務所制度下における「未判決の女性たち」の実態について検証し、グレシャム・サイクスによる「投獄の苦痛」といった西洋の理論では、グローバル・サウスにおけるジェンダーに根ざした現実を捉えきれていないことを明らかにする。フィリピンの女性にとって、収監は彼女たち自身だけでなく家族や親族ネットワークにも影響を及ぼす。それは、女性たちが「母親」または「家庭の中での主たる生計維持者」としての役割を持っており、家族や親族は彼女たちに依存して生活しているためである。したがって、女性が長期にわたって勾留されるということは、刑罰を刑務所の壁の外にまで拡大させることになる。こうした困難にもかかわらず、質的調査の結果によると、収監された女性たちは、集団的な連帯や「ダマヤン (damayan)」や「バヤニハン (bayanihan)」といった文化的慣習を通じて、驚くべき回復力を示している。これらの慣習は、社会的孤立に抵抗し、釈放後の社会へのより強固な再統合を支える助けとなっている。

講師紹介

博士(法学)。専門は法社会学、フィリピンの法と正義および政治。特にASEAN およびミンダナオにおける司法政治、法の支配、民主主義、紛争、および法的多元主義に焦点を当てている。



2026年7月3日(金)

14:50-16:20

会場：クリスタルホール

司会：高橋 麻奈 先生

(本学グローバル・リベラルアーツ
学部 准教授)

使用言語：英語

申込みはこちら ▶

